令和8年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】

上尾市立西中学校

上尾市立西中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標
夢を実現できる学校
○主体的に考える生徒
○人間性豊かな生徒
○他者と協働できる生徒

学校課題研究主題
根拠を持って論理的に考え抜く生徒の育成 ～小中９年間の学びを繋ぎ、ICTを活用した対話的な授業改善を通して～

学力・学習状況調査の結果

R８全国学力・学習状況調査	R８埼玉県学力・学習状況調査	R７ 上尾市立小・中学校学力調査
・国語、数学、英語において平均正答率は全国平均を上回っていた。 ・国語の文章を読んで理解したことから自分の考えを示す問題について、正答率が低かった。 ・数学では、数学的に分析・解釈することに課題があった。 ・英語では、各技能別において、全国や県の平均正答数を上回っていた。	・学力レベルは、中１で県平均より国語が１段階、数学が同程度、中２では国語が２段階、数学が３段階、中３では国語、数学が１段階、英語が３段階伸びている。 ・国語、算数、英語ともに、学力を伸ばした児童の割合は埼玉県の平均を上回っている。中２の国語のみ県平均を下回った。 ・非認知能力の主体的・対話的で深い学びとプランニング方略の項目の数値が埼玉県と比較して低い。	【１学年】３教科とも、目標値を６～９％上回っている。特に国語では「書くこと」が目標値よりも１２％上回っている。数学では「数と式」「図形」で８％以上回っている。英語では「思考・判断・表現」が１０％上回っている。 【２学年】３教科とも、目標値を７～１３％上回っている。国語では「書くこと」で１１％上回っている。数学では「数と式」「図形」「関数」で１０％以上上回っている。英語では「書くこと」が２０％と大幅に上回っている。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①確かな学力を習得するための基礎・基本の力 ②得た知識を活用する方法を知り、様々な場面で応用できる力	③様々な事象、論理を考え合わせ理解する力 ④自分の意見や考えを述べたり、発表したりする力 ⑤自分の考えを他者と互いに伝え合い、考えを深める力	⑥粘り強く学習に取り組み、自らの学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力 ⑦自己理解・他者理解を通し、互いを認め合い、学び合う力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
〔わかる授業の展開〕 ・前時の復習を含む授業の導入や課題提示の工夫を行う。 ・生徒の理解度を把握し、授業改善を行う。 ・適切な評価と支援、評価規準に達しない生徒への具体的な支援を行うことで、基礎・基本の確実な定着を図る。 〔家庭との連携〕 ・問題集やプリント等、定期的に宿題を課し、基礎・基本の確実な定着を図る。	〔伝え合い、学び合いの工夫〕 ・自分の考えを根拠をもってまとめ、他の人に発信する場面を多くもつなど、話合い活動を充実させることで主体的・対話的で深い学びを推進する。 ・他者の意見を聞き、自分の考えを深める活動を設定する。	〔ほめる教育の推進〕 ・自己効力感を高め、困難な課題にも諦めずに取組み、学習意欲の向上につながるよう良さを認め合う教育を行う。 〔生徒の主体的な学習の推進〕 ・生徒に課題意識をもたせ、主体的に授業に取り組めるよう働きかける。 ・ねらいに結び付け、生徒の興味・関心を高めるために、効果的にＩＣＴを活用する。

本校の特色ある取組	家庭教育との連携
①あいさつの指導 ②読書活動の推進 ③小中一貫教育の推進 ④根拠をもった話合い活動を重視した授業展開	〔家庭学習の習慣化〕 ・家庭学習の習慣化、定期テストの学習計画の作成 〔保護者との連携〕 ・学校の教育活動の情報発信 ・さくら連絡網の活用

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①確かな学力を習得するための基礎・基本の力。 ②得た知識を活用する方法を知り、様々な場面で応用できる力。	③さまざまな事象、論理を考え合わせ理解する力。 ④自分の意見や考えを述べたり、発表したりする力。 ⑤自分の考えを他者と互いに伝え合い、考えを深める力。	⑥粘り強く学習に取り組み、自ら学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力。 ⑦自己理解・他者理解を通し、互いを認め合い、学び合う力。

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、⑤	①国語の基礎となる漢字・文法の小テストの実施。 ⑤話合い活動の場面を増やし、目標に沿った学び合いができる環境の充実を図る。	
社会	①、④	①前時の振り返りや小テストなどの実施する。 ④グループや全体での発表場面を増やす。	
数学	①、④	①基礎基本の定着を図る反復学習の導入。 ④課題解決に向けた個人で考える力、話し合う力、根拠をもとに説明する力の育成。	
理科	④、⑤	④目標に沿った学び合いができる環境の充実を図る。 ⑤考察時の話合い活動の場面を増やす。	
外国語	①、②	①音読を通して音声と文字の一致の定着を図る。既習事項を用いた対話活動を繰り返し行う。 ②テーマに沿って自分の考えを主体的に簡潔に述べる活動を増やす。	
音楽	①、⑤	①楽譜の見方や音楽用語を適宜振り返る。 ⑤演奏の振り返りや曲の特徴を捉えて発表する。	
美術	①、⑤	①短時間課題を取り入れ、多くの題材を制作することで、基礎となる知識や技能の定着を図る。色の知識や技法など、適宜振り返る。 ⑤鑑賞会の時に、「美術のことば」集を配り、作品のよさや工夫などを具体的に根拠を示して伝えることができるようにするための支援をする。	
技術	①、④	①活動を通して、課題を明確にさせ、基礎基本の着実な定着を図る。 ④学習内容が社会の中でどう活かされるか、グループ討議や発表を取り入れ共有する。	
家庭	①、⑥	①実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的技術を習得させる。	

		⑥生活の中から課題を見つけさせ、主体的に取り組むことができるようにはたらきかける。	
保健体育	①、⑤	①運動の特性に触れるために、各種目の感覚練習やスモールステップを行い、基本的な技能を身に付ける。 ⑤自分ができるだけにとどまらず、互いにアドバイスをしながら、みんなができることをめざす。	
特別の教科 道徳	⑤、⑦	⑤⑦ねらいとする価値について個人で考えたことを伝え合う活動を行い、自己理解と他者理解を深める。	

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
①あいさつの指導	・学校区内で９年間を見通した「進んであいさつや返事ができる」生徒の育成を共通目標として明示 ・「さわやかなあいさつを相手より先に」の取組 ・毎月１回、学年委員による「朝のあいさつ運動」の推進 ・学期に１回、地域・保護者による「第３地区会議合同あいさつ運動」を実施
②読書活動の推進	・相手を思いやる想像力と受け入れるための創造力の育成 ・毎日１０分間の朝読書を実施 ・図書委員会による読書月間の取組 ・共有スペースの本棚の設置 ・長期休業前に本の貸し出しを行い、長期休業中の読書を推奨
③小中一貫教育の推進	・小中一貫による「あいさつ励行」「生徒指導の共有」 ・小学生の授業見学 ・小学校に向けて、生徒会による学校紹介の配信
④根拠をもった話合い活動	・自身の考えをまとめる時間の確保 ・課題に対して、根拠をもって自身の考えを発表する機会を設ける
家庭教育との連携	
①家庭学習の習慣化	・定期テスト前に学習計画を立て、その計画の実行と振り返り ・全家庭にシラバスの配布 ・家庭学習習慣の定着に関する家庭への啓発
②保護者との連携	・学級・学年・学校からの通信の発行、学校ＨＰ・さくら連絡網を活用した情報提供・発信・公開 ・さくら連絡網の保護者登録１００％を目指し、欠席連絡やアンケート機能を活用 ・ＩＣＴ端末を活用した課題の発信